



香川県防災士会 会報



第26号 2018.11

先日、愛媛県宇和島市を訪問した際、数個の花をつけた桜の木を見ました。秋に桜の花を見ると、「なんかいいことありそう！」と思う反面、「秋なのにかわいそうだな～」なんて思ってしまう。

その宇和島市では、多くのみかん畑で土砂災害が発生しました。崩れた斜面に1本だけ残ったみかんの木。それでもオレンジ色のおいしそうな実をつけていました。

みかんは、栽培を始めて収入を得る実が取れるようになるまで何年もかかるそうです。最も成熟するのは20年近く経った木だとか。その20年選手の斜面が崩れた農家さんがいらっしやいました。しかし、全国から駆け付けるボランティアに勇気づけられ、みかんを待っていてくれるお客さんからの応援を受け、地域のみかん農家の皆さんと様々な仕掛けをしておられます。

私たちも、長年の活動が少しずつ認められてきています。地域とともに活動を続けていける防災士会であり続けたいですね。

♪今回は、報告 8 件です♪

＜平成 29 年度「防災士功労賞」受賞式に出席して＞ 【会長：久保 雅和】

平成 30 年 6 月 22 日憲政記念会館(東京都千代田区永田町 1-1)において平成 29 年度防災士表彰「防災士功労賞(5 団体 2 個人)」受賞式が行われ香川県防災士会を代表して出席しましたので報告をします。

「防災士功労賞」とは

日本防災士機構が平成 28 年度から防災士としての活動及び社会貢献活動に関して、顕著にして他の模範となる大きな功労があった防災士個人、又は防災士のグループ・団体について、これを称え顕彰することにより、防災士全体の志気を高め、活動意欲の増進を期待すると共に、防災士制度のさらなる進展に寄与することを目的として制度が設けられた。平成 28 年度は防災士会から熊本県支部が表彰され、平成 29 年度は香川県防災士会が表彰された。

香川県防災士会の表彰理由として会員の増加に伴い、県内を 7 ブロックに分けて地域密着型の活動と女性部会、香川大学学生部会、特定郵便局長部会、アマチュア無線部会を設け専門性、特性に応じた多彩な活動に取り組んでいることと、行政との連携も積極的にいき、香川県自主防災活動アドバイザー委嘱、香川県教育委員会から学校防災アドバイザー派遣事業の活動が認められ、日本防災士機構・国松孝次理事長から賞状及び副賞を受賞しました。

表彰理由にあるように会員の地道な活動が評価されたものです。皆さん有難うございました。この賞を基に今後も地域に根差した活動をつづけ県民の減災に努めていくことを目指します。

＜その他の受賞者＞

団体：熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」、佐渡地区郵便局長会、石川 3 地区郵便局地長会、東日本旅客鉄道労働組合

個人：日本防災士会長野県支部顧問・有賀元栄氏、日本防災士会理事・横山恭子氏

＜飯山北小学校防災訓練＞ 【中讃支部長：近藤 一夫】



平成 27 年から続いている飯山北小学校の防災訓練支援を今年も 8 月 25 日に、6 年生約 60 名を対象に実施しました。今年の訓練内容は、①「避難所について学ぼう！考えよう！」②「簡易担架作り体験」③「出血時の止血法実技訓練」の 3 種類をグループに分かれ実習してもらいました。

支部防災士 10 名が参加し、③を主として実技指導をしました。小学 6 年生では「出血時には傷口を強く圧迫する」というにはまだ少し力が足りないか？との感じもしましたが、考え方

や方法は理解してもらえたかと思っています。

今回の訓練支援に際しては、中讃支部も事前に会員のスキルアップを兼ねて、高橋真里、奥村里々子両講師の指導のもとに、応急手当の基本についての再度勉強・研修をした後、この訓練に臨みましたので、自信を持って指導することができました。なお、丸亀市飯山北地区は自主防災会、小学校、PTA、消防団などが緊密に連携し、防災活動が非常に熱心・活発な地区で、小学校以外でも地区内の全幼稚園・保育所対象に防災訓練「きつず防災教室」を毎年開催しています。今年も地元防災士が水消火器訓練等で活躍していますが、中讃支部は「防災紙芝居」などを支援しました。

＜新塩屋町地区コミュニティ協議会防災継続計画作成中間報告＞ 【高松北支部長：与田 勲】

新塩屋町地区は沿岸部に位置して、高潮、津波、そして液状化の危険度はAクラスと言われ、南海トラフの大地震が起これば甚大な被害をもたらすと想定されています。県は国からの要請を受け、県内各地域で地区防災計画の普及に取り組んでおります。そこで目をつけたのが当地区です。今年7月に危機管理課から「この地区をモデル地区として指定し、継続計画作成の支援を図り、県内各地区が防災・減災に意識を持ってもらう」との要請があり、当コミュニティ協議会も検討の結果受け入れることにしました。

さっそく県側からアドバイザーとして香川大学磯打准教授、県防災士会から久保会長、多田副会長、高橋事務局長、そして高松市危機管理課からメンバーを選任して、7月末に新塩屋町地区コミュニティ協議会の各部会代表者、地区住民を集めてコミュニティセンターでの第一回の説明会を開きました。(写真添付)出席者は100名を超える盛況でした。

第2回検討委員会はコミュニティ協議会から防災に関係のある各部会の役員、そして、部外者からは小学校教頭、片原町商店街代表者、子ども会、老人会、消防分団等々16名ほどのメンバー構成で実施しました。そこで話し合われたのは、「地区の災害の特性により6から7ブロックに分け細分化したブロックごとに計画を進めることがよい」との結論でした。

次回(9月28日)以降は下記のような議案事項を話し合う予定です。

- ブロックごとの体制及び避難場所の設置
- ブロックごとの避難所運営の役割分担
- 現防災マップを、ブロックごとのマップを作成し、危険箇所等を表示する
- ブロックごとの要配慮者対策

※平成30年度中に完成の予定で進めます



<西予市災害ボランティアに参加して> 【東讃支部：西澤 一弘】

平成最後の年の7月7日、天の川でひこ星とおひ姫星が会おうロマンチックな話とは正反対な災害が、西日本の広範囲で発災いたしました。被災地の一つ西予市野村町に8月2日、久保会長以下8名がお邪魔いたしました。発災からほぼ一か月近く経っていましたので、ある程度落ち着きが戻っていた感じはありましたが、復旧にはかなりの時間が掛かりそうなのは見て取れました。社協の方の指示の下、作業現場に入り家財の搬出を致しましたが、暑さとの闘い。全員汗まみれでの格闘でした。終了時に家人より感謝の言葉をいただき、少し疲れも減ったような気が致しました。今年は災害列島の感がありますが、我々は南海地震・東南海地震に対し負けない強い心構えを持ちましょう。



<命を守るための早期避難を定着させる取り組み（さぬき市南川地区）> 【東讃支部：齋藤 弘】

※南海トラフ等の地震は除く

1. さぬき市大川町南川地区プロフィール

中山間地にある64世帯、住民160名の小さな集落（高齢化率45%） 特産品/自然薯

過去に土砂災害・河川氾濫等で幾度も被災し、一定以上の降雨があれば被災は免れない

地区。地区の中央を流れる約4kmの急峻な爛川上流部沿いに集落を形成し、多くの住民がH29 さぬき市作製の土砂災害ハザードマップの警戒区域・特別警戒区域内に居住。

2. 想定される災害 一定以上の降雨等による土砂災害（土石流、がけ崩れ）及び河川氾濫

3. 30年度防災訓練 6.3 土砂災害避難訓練（高齢者・要配慮者を避難場所まで誘導） 120名



◆成果：要介護高齢者は指定避難場所（2階大広間）は無理⇒1階ホールも開設に変更された！

4. 今年注力している減災活動 「避難場所への早期避難を住民に定着させる取組み」

①早期避難をするための判断基準のわかりやすい目安づくり

※気象庁の気象予報、市発令の避難関連情報以外で地元密着の情報

(1) 地区内を流れる爛川上流3地点の目視による避難判断のための警戒水位目印



(2) 地区外中流部に県が設置している水位計（爛川橋）の水位 /50 cm：水防待機

(3) 近隣3雨量計の降雨実績 (4) 気象庁のレーダー解析降雨予測・危険度判定等

(5) なぜ早期避難が必要か、過去の災害履歴をデータ・写真等でわかりやすく解説

②実践的避難誘導 「一番の問題である住民の正常化バイアスを取り除くために」

(1) 防災リーダー等が率先して要配慮者を誘導して、一緒に避難場所で過ごす。

◆お互い要配慮者になり久しく会えなかった友人が、避難場所で再会でき喜んでもらった。

(2) 避難所で時間を過ごす楽しみを見つけ、皆で共有する（歓談、会食、カラオケ等）

(3) 中山間地の被災リスクは世帯ごとに異なるので優先順位をつけて対応

優先誘導対象者：要配慮者（高齢者、障害者等）、危険箇所居住者等

③ 継続的な働きかけ

(1) 防災通信発行（10号） (2) 集会ごとの話題提供（一斉清掃、地鎮祭、敬老会等々）

<太田南地区防災部会「親子防災教室」について> 【高松南支部：多田 邦夫】



太田南地区防災部会では原則としてブロック（6ブロック）ごとに訓練等活動を実施することにしてしています。6月24日に東分ブロックによる「親子防災教室」が開催されました。

香川県防災士会女性部会による布芝居と親子防災クイズを主体に太田南コミュニティセンターで約2時間開催されました。司会者（コミュニケーションアドバイザー）の巧みなリードと香川県防災士会女性部会の的を射た解答ぶりに参加した子供さんたちもリラックスして、大変意義ある親子防災教室を開催することができました。イベント参加者は総勢42名でしたが、多くの方から「防災士会女性部会のサポートぶりが素晴らしく、各親子（参加者20名）の防災に対する理解がより深まったのではないか」という感想を述べられていました。



＜さぬき市との防災士継続教育支援に関する協定締結＞ 【東讃支部長：林 宏年】

1. はじめに

東讃支部は、地域の防災・減災に資する「東讃支部勉強会・役員会」を支部が発足した平成24年7月から毎月実施している。また、1年間の限定ではあったが、「高松市防災士ネットワーク会員を対象としたスキルアップ」も実施してきた。

これらのことに着目した東かがわ市は東讃支部と協議を重ね、平成28年4月に「防災士の継続教育支援に関する協定」を東讃支部と締結した。東讃支部が総力を挙げ東かがわ市への支援を続けるうちに、隣接するさぬき市でも同様な事業を行うことを決定された。

2. 協定の内容

さぬき市と香川県防災士会東讃支部は、市内の防災士の継続教育支援に関する協定を締結する。香川県防災士会東讃支部はさぬき市と協力して、さぬき市が育成した防災士が防災リーダーとして地域の防災力向上の中心となって活動できるよう、以下に示す講習（勉強会）と現地訓練（防災まち歩き等）を実施する。

具体的には次のとおり計画している。（年間6回程度）

- 安全な避難場所の選び方 ～さぬき市で発生する自然災害に対応～
- 危険範囲に住んでいる場合の対処の仕方 ～地震・津波・ため池災害編～
- 危険範囲に住んでいる場合の対処の仕方 ～水害・土砂災害編～
- 地域で防災・減災を行っていくうえで必要な課題の発見方法と具体的な方策について
～ピンときてほしい情報はコレだ～
- 地域の減災活動に効果があるDIGやHUGの実施に必要な人・もの・費用について
～身近な自主防災活動の先行きを見える化～
- 今後、避難所運営マニュアルや地区防災計画を作成するに当たり、配慮すべき自然・社会条件と優先すべき対応策の例示とその実施手順について

3. おわりに

これまでの一連の動きには、香川大学が過去に実施した防災特別プログラムへの参加者が構築した人間関係が大きく影響しており、行政と民間が織りなす防災・減災の好ましい成果の一つになったと考えられる。防災特別プログラムを企画・実行された香川大学の白木渡先生や長谷川修一先生にはこの場を借りて深く謝意を表します。

近い将来、目の前で発生する大規模自然災害に、地域住民が災害・減災の見える化で得た知見を以て立ち向かえば、避難行動を共にする住民の多くが安全な場所に避難できる可能性が高まるものと考えられる。

東讃支部では、会員がもつ多様な個性と才能を借りて、今後とも災害時の住民に資する「安全・安心のために有効な担保づくり」を地域に提供し続けていきたいと考えている。



＜三木町の防災・減災対策に関する協定締結＞ 【東讃支部長：林 宏年】

1. はじめに

東讃支部は、地域の防災・減災に資する「東讃支部勉強会・役員会」を支部が発足した平成24年7月から毎月実施し、この中で出てきた会員からの提案や地域からの依頼を基に、地域の自主防災活動等への準備・支援や「高松市防災士ネットワーク会員を対象としたスキルアップ」を実施してきました。

このような防災・減災活動を行う中で、会員の皆さんと地方公共団体、自主防災組織及び住民との間の人脈は徐々に広がっていき、「防災士の継続教育支援に関する協定」を平成28年4月に東かがわ市と、平成30年6月に、さぬき市と結びました。

三木町とは、2年半前から、一般の住民を対象にした自主防災力レベルアップ講習会事業を展開しており、行政と支援協定を締結することにより、管内の防災・減災に関するより広範で複雑な課題も事業の対象範囲になり、継続的な事業を通して東讃支部が今まで以上に効率的な支援を行える（防災・減災の見える化）可能性が高くなりました。

2. 協定の内容

平成30年7月13日（金）、「地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の機能強化及び地域の防災・減災対策の中心を担う防災リーダーを育成する」ことを目的として、香川県防災士会東讃支部と三木町は防災・減災に関する支援協定を締結しました。

今後、香川県防災士会東讃支部は、三木町が行う講習会、訓練、防災・減災に関する計画策定等において、次に掲げる指導又は支援を行います。

（三木町が実施する自主防災力レベルアップ講習会（年6回程度）への支援）

- （1）各種自然災害に関する防災マップの見方及び作成
- （2）各種自然災害に関する災害図上訓練、実地避難訓練、避難所運営訓練等の実施

（習熟度が向上した住民や要請のあった地域住民への支援）

その都度三木町を香川県防災士会東讃支部が案件の内容を協議し、香川県防災士会東讃支部了解の上で次に掲げる支援を行う

- （1）避難所運営マニュアル策定
- （2）地区防災計画策定
- （3）避難行動要配慮者マップ作成
- （4）その他

3. おわりに

今回の協定により、今までの自主防災力レベルアップ講習会事業に一般住民への防災・減災に関する多岐な支援事業が加わります。このことで事業リスクは当然高くなるでしょう。しかし、事業の進展が、地域住民にとって「防災・減災の見える化」に繋がることから、東讃支部の役員の皆さんと一致団結して協力していただく会員の皆さんの飽くなき「知的好奇心」や「スキルアップへの向上心」に、インセンティブな効果をもたらすものと考えられます。

つい先日の「平成30年西日本豪雨」では、私と家族は土砂災害の避難者となりました。この時の等身大の経験や避難行動から得た課題等も教訓にして、会員や地域住民の皆さんと防災・減災に関する「一人ひとり

の夢を、みんなの夢にするために」、東讃支部として一步前に進んでいきたいと思ひます。

決まり文句になりましたが、東讃支部では会員がもつ多様な個性と才能を借りて、今後とも災害時の住民に資する「安全・安心のために有効な担保づくり」を地域に提供し続けていきたいと思っております。さらなるご理解とご鞭撻をお願いいたします。



今後の行事予定

下記の通り、スキルアップ研修および懇親会を計画しております。

※はがきを郵送しております。

＜スキルアップ研修＞

日時：12月2日（土）13：30～15：30

場所：香川大学研究交流棟5階研究者交流スペース

内容：①「校長」から「避難所所長」へ

山都町教育長 井手文雄氏（元益城町立広安西小学校長）

②「学校防災アドバイザーに望むこと」

香川県防災士会 野崎恭一氏（元さぬき市立長尾小学校長）

香川県防災士会事務局

kagawa-bousaishi@hotmail.co.jp